公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2016年 11月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・会員を増やすための探鳥会①）・・・1
◆私たちの探鳥会自慢・・・・・・・・・・・5
「サギの塒入り探鳥会」
◆日本野鳥の会埼玉で Young 探鳥会交流会が開催されました・・・・・・・・・・・・・6
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・7
（2016 年 9 月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・9
・「探鳥会リーダーズフォーラム東日本」の参加者を募集しています！
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読数・・・・・・・・・・・・・・12
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・13
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・13

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会①）

今年度の「会員を増やすための探鳥会」は全国の支部に参加を呼びかけました。その結果、新たに 6 支部が参加くださり、18 支部で開催することになりました。

表 1.にありますように、2016 年 10 月～2017 年 2 月の間に、計 28 回開催する予定です。

今月号より、随時各地の様子をご報告いたします。

初回の 10 月 30 日は「リーダーズフォーラム西日本」と重なり、財団職員が参加できなかったため、各支部の方より報告をお寄せいただきました。

表 1.　2016 年度会員を増やすための探鳥会日程一覧

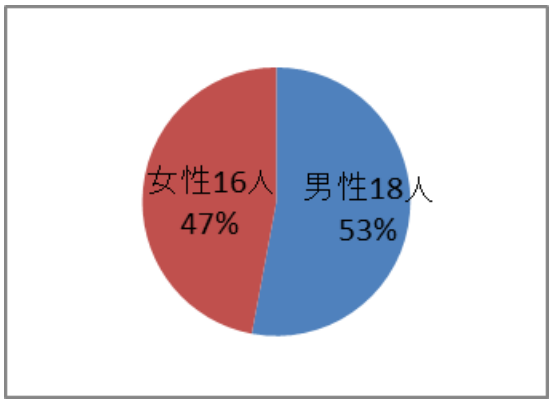
開催日 2016年		支部名	開催場所
No1	10/30(日)	群馬	波志江沼環境ふれあい公園
No2		大阪支部	狭山池
No3	11/6(日)	宮城県支部	仙台市博物館周辺及び青葉山公園内
No4		和歌山県支部	平池緑地公園
No5	11/20(日)	宮崎県支部	平和台公園
No6	11/23(水・祝)	秋田県支部	小泉潟公園
No7		東京	代々木公園
No8		滋賀	南郷(瀬田川洗堰周辺)
No9		奈良支部	平城宮跡・水上池
No10	12/3(土)	奥多摩支部	昭和記念公園
No11		栃木	鳥野目河川公園
No12		千葉県	千葉公園
No13	12/10(土)	千葉県	柏の葉公園
No14	12/11(日)	埼玉	大宮公園
No15	12/17(土)	栃木	栃木県中央公園
No16	12/23(金・祝)	茨城県	乙戸沼公園
No17		京都支部	鴨川
No18		諏訪支部	諏訪湖横河川河口

開催日 2017年		支部名	開催場所
No19	1/14(土)	栃木	羽田沼
No20	1/28(土)	栃木	井頭公園
No21	1/29(日)	茨城県	かすみがうら市雪入ふれあいの里公園
No22		大阪支部	産湯稲荷神社(真田抜穴跡)～天王寺公園(茶臼山)
No23	1/21(土)	神奈川支部	追浜駅～野島公園
No24	2/11(土・祝)	栃木	小山運動公園
No25		神奈川支部	山下公園
No26	2/25(土)	栃木	勝山公園
No27	1月または2月	熊本県支部	未定
No28	未定	和歌山県支部	和歌山城公園

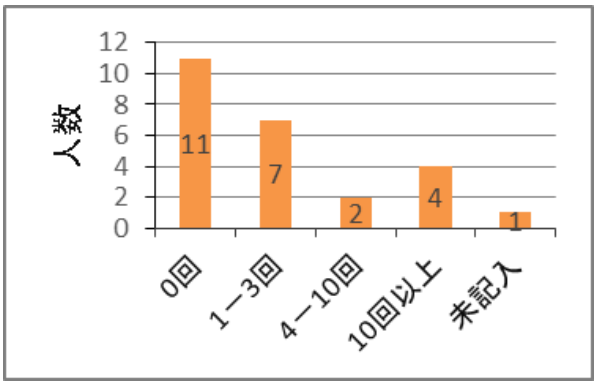
初心者のためのバードウォッチング　イン 波志江沼　（群馬）

【日時】2016 年 10 月 30 日（日）9 時 30 分～11 時 00 分
【天候】晴れ
【場所】波志江沼環境ふれあい公園
【参加人数】25 名（うち一般参加者 20 名）
【リーダー】6 名
【お試し入会】3 名（一般参加者のうち 15%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
　＜新聞＞毎日新聞、朝日ぐんま、上毛新聞

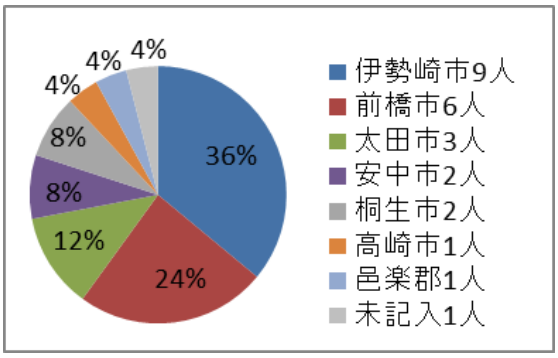
【性別】



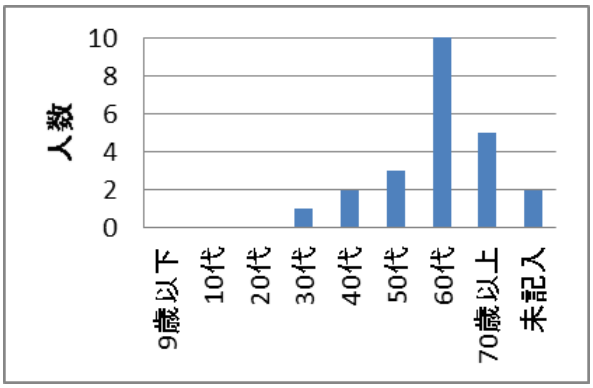
【バードウォッチングの経験回数】



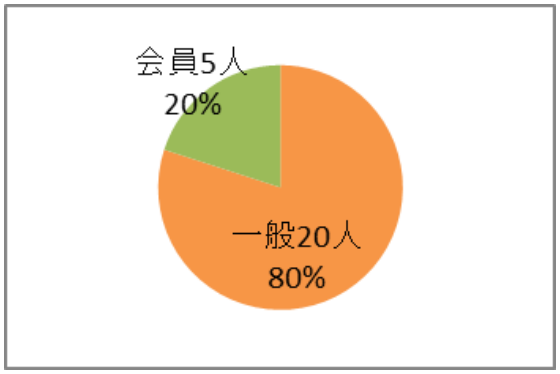
【お住まい】



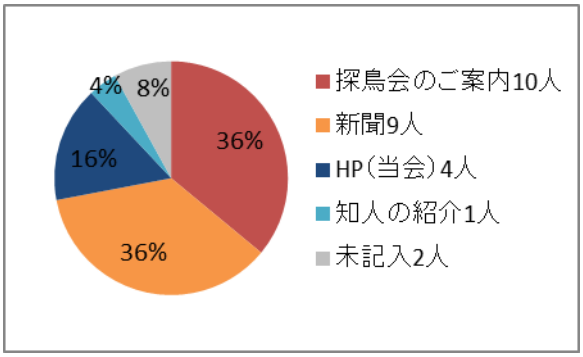
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■バードウォッチング初心者を対象とした探鳥会開催

日本野鳥の会の本部と支部の共催による野鳥観察初心者向け野鳥観察会を本年度は 10 月 30 日に伊勢崎市波志江町の波志江沼環境ふれあい公園で実施しました。日本野鳥の会群馬ではこれまで年 1 回の開催を行っており、今回の開催で 3 回目となりますが、開催場所を初回の藤岡市、第 2 回の前橋市に続いて今回は伊勢崎市とし、少しずつ場所を変えながらの開催となっています。

開催場所であるこの沼は伊勢崎市内で最大の沼に公園が整備された場所です。この公園南側にある「けやき広場駐車場」に 9：30 集合、双眼鏡の使い方などを説明した後、探鳥を行いました。

▲開催場所の案内図

集合場所からは沼の水面は見えませんが、沼の土手に上がるとすぐにカモ達を見ることができ、しばし釘づけ状態での観察でした。カモ達は素早く移動してしまわないので、じっくりと観察ができ、またフィールドスコープも活躍して初心者の人達に適していると思います。参加者にはカモ達の違いを見つけるのが難しかったかもしれませんが、何種類ものカモがいることに驚き、野鳥への関心を持っていただけたのではないかと思います。

その後、沼の周り約半周を移動しながら、周辺の木にやって来るシジュウカラやメジロなどを観察、さらに沼に隣接する畑などに、ジョウビタキやモズなどの野の鳥も観察しながらスタート地点へ戻るコースとしました。

集合地点に戻った後、鳥合わせ、日本野鳥の会のＰＲを行って解散しました。この日は天候も穏やかで、良い日での開催となり参加者にとっても楽しめた半日だったのではないでしょうか。

今回の参加人者は 25 名（非会員 20 名、会員 5 名）で、おためし会員に 3 名の方が申し込みいただきました。

▲実施風景

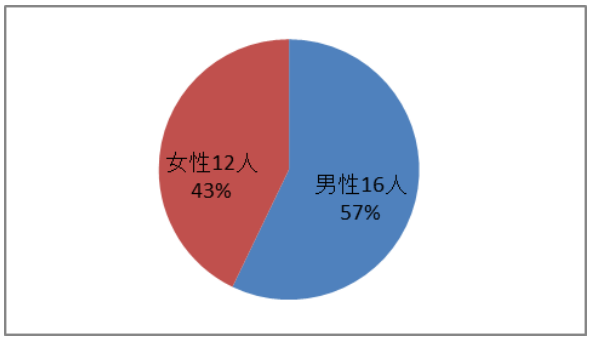
見られた鳥は、カルガモ、マガモ、コガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、カイツブリ、オオバン、イカルチドリ、アオサギ、カワウ、カワセミなどの水辺の鳥。シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、カワラヒワ、ハクセキレイ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラスなどでした。

（日本野鳥の会群馬／神宮義憲）

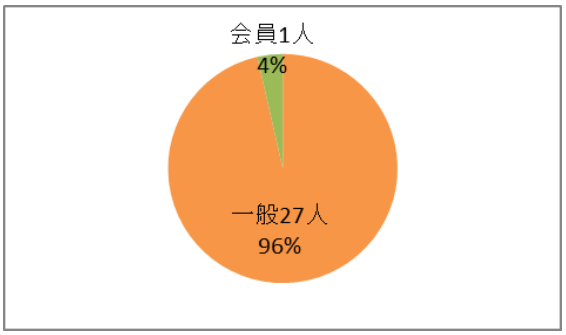
『はじめての鳥見たい（隊）！歴史散策と野鳥～狭山池築造 1400 年』（大阪支部）

【日時】2016 年 10 月 30 日 （日） 9 時～12 時
【天候】晴れ
【場所】狭山池
【参加人数】28 名（うち一般参加者 27 名）
【リーダー】13 名
【お試し入会】0 名
【広報】＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、大阪支部 HP
＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）

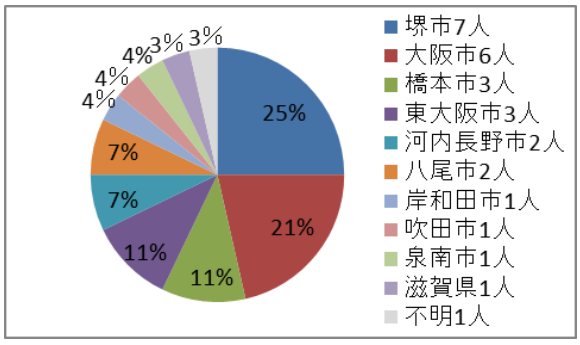
【性別】



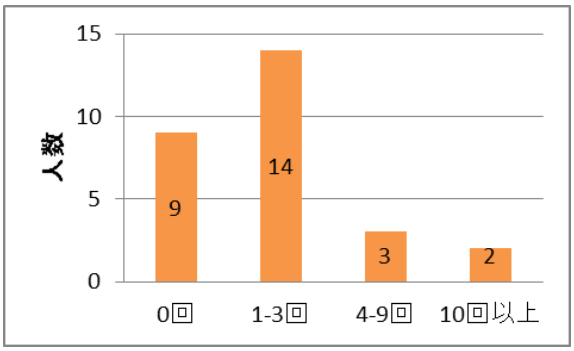
【会員/一般】



【お住まい】



【バードウォッチングの経験回数】



※事前申込制のため、申込者の記入項目が異なり、【年齢構成】と【何で知ったか】の集計はできませんでした。

■探鳥会の様子

金剛駅に集合し、狭山池に向かいました。途中、摺鉢池、ひつ池、市街地でも観察、ＮＴＴの建物に止まるイソヒヨドリなどが見られました。狭山池では、4、5 人のグループに分かれて観察しました。池の周辺では、モズ、コガモ、イソシギ、オオバンなど、池の中央付近では、ホシハジロ、カンムリカイツブリなどが見られました。カモ類の数は少なく、少々寂しかったですが、野鳥の世界の楽しさを十分に味わっていただけたと思います。

見られた鳥は全部で 31 種。

（日本野鳥の会大阪支部／藤崎裕）

■参加者の声

中学生の息子と一緒に狭山池公園の初めての鳥見たい隊に参加してきました。早朝金剛駅に集合で大人の方がほとんどだったので、少し残念そうにしておりましたが、探索が始まると夢中になりいろいろな野鳥を見つけることができました。見つけるたびにチェックノートに嬉しそうにマルをつけておりました。私はあまり鳥に詳しくはないのですが、リーダーの方が親切にその鳥の特徴や生態を教えてくださりいろいろ勉強になりました。

モズがあんなに可愛いのは初めて知りました（笑）リーダーの皆さん、お世話になりありがとうございました。また是非参加させていただきたいと思っております。

（参加者 N.E.さん）

◆私たちの探鳥会自慢

10 月の中部ブロック会議の中で、「変り種探鳥会」というタイトルで、いろいろなスタイルの探鳥会が報告されていました。探鳥会スタッフ通信でもそのいくつかを紹介していきたいと思います。まずは、日本野鳥の会遠江が今年の夏に初開催した「サギの塒入り探鳥会」です。

「サギの塒入り探鳥会」（日本野鳥の会遠江）

【日時】2016 年８月７日（日）
17 時～19 時
【場所】太田川と原野谷川の合流点、中州周辺
（静岡県袋井市）
【参加者】24 名
【スタッフ】４名

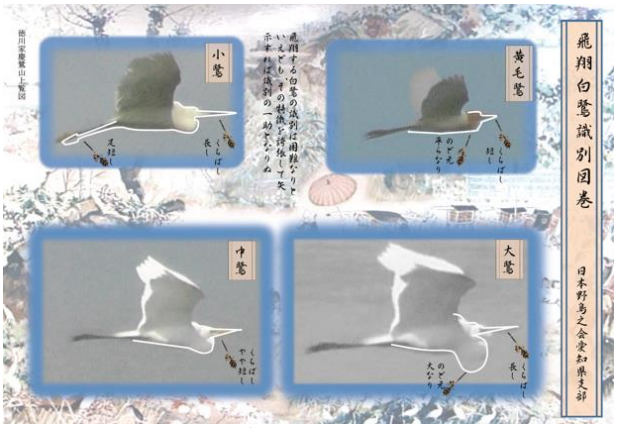
■背景

鳥も少なく、暑さのために外へ出かけたくないという心理もはたらく夏場は、これまで探鳥会をあまり開催していませんでした。昨年８月に予定していた探鳥会は１回だけでしたが、今年は何とか２回開催したいと思い、サギの塒入りに着目して開催しました。

■探鳥会の様子

８月の暑い昼間を避け、夕方の比較的涼しい時に探鳥会を行いました。参加者は 24 名。ほとんど移動はせず、２つの川の中州にある２～４千羽のサギのコロニーを川向から観察しました。

愛知県支部のサギ識別図も使わせていただき、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アマサギ、ゴイサギなどの識別をじっくり行いました。



▲愛知県支部のサギ識別図

▲サギのコロニーの様子

▲夕日をバックにサギの写真も撮れる

■今後の展望

遠江としては初めてのサギの塒入り探鳥会でしたが、新しい視点での探鳥会として好評でした。

探鳥会の途中、川沿いをツバメが下流に向かって飛んでいく様子が見られました。後日、調べてみると、約 1km 下流のヨシ原にツバメが塒を作っているのを見つけました（推定 1～2 万羽）。来年は、ツバメの塒入りと合わせて行いたいと思います。

（報告：日本野鳥の会遠江代表／増田裕）

◆日本野鳥の会埼玉で「Young 探鳥会交流会」が開催されました

【日時】2016 年 10 月 22 日（土）
18 時 15 分～20 時 30 分ごろ
【場所】東大宮コミュニティセンター
（埼玉県さいたま市）
【参加者】15 名
【プログラム】
1． アイスブレイク：1 対 1 で自己紹介（約 20 分）
2． グループトーク：テーマ「最近ここに鳥を見に行きました・これからここに行きたい」（約 30 分）
3． 講義「なつみずたんぼとシギ・チドリ」
講師：NPO 法人オリザネット
古谷愛子さん（約 1 時間）

■会の様子

参加者は、高校生や 20～30 代くらいの会員やこれから探鳥会に行ってみたい方（6 名）とその親御さん（1 名）、Young 探鳥会の担当リーダーさん・ベテランリーダーさん（5 名）に加え、東京と神奈川の探鳥会リーダーさん（2 名）の姿もありました。参加者のみなさんに参加の動機をうかがったところ、
「これから会員になろうと思っていて facebook やホームページを見たところ、この会を知って来てみました」、
「支部がどのような雰囲気かを知りたいと思ってきました」
という声が聞かれました。
「埼玉在住だが、東京や千葉でも探鳥会に参加している。今日は埼玉の活動も知りたいと思った」という若者も。

前半の約 1 時間は、参加者同士の交流の場でした。1 分間で相手を交代しながら、1 対 1 で自己紹介をする時間と、4・5 名のグループに分かれてテーマにそって話をする時間がありました。ルールやテーマがあらかじめ決まっていたので、その日初めて会った人とでも気軽に話ができました。

後半は、NPO オリザネット事務局長の古谷愛子さんから、「なつみずたんぼ」の取組みについてのお話を聞きしました。「なつみずたんぼ」は、
「夏場に収穫後の麦畑などに水をはっておく田んぼのことで、水をはるだけでシギ・チドリなど野鳥の他に、多種多様な水生生物のすみかとなる。また、雑草の防除効果も期待できる。農地は多様な生物のすみかであり、その保全のためには農家の理解が必要。経済的にも精神的にも農家を応援するしくみが広がると良い」
とのお話がありました。

講演の後の質疑応答では、
「田んぼで鳥を見ていると、農家の方に声をかけられることも多い。その時、その田んぼで撮影した写真を見せると、その方が知らなかった野鳥の写真もあって、とても喜んでくれる。田んぼにたくさんの野鳥がいること、それがすばらしいことだということを農家の方に伝えること、それを誇りに思ってもらうことが、我々バードウォッチャーにはできるのではないか」
などの意見があがりました。

■まとめ

普段は 2 か月に 1 回、探鳥会を開催している埼玉 Young 探鳥会ですが、10 月は初の試みとして、室内で交流会をということになったそうです。今回の企画は、Young 探鳥会の参加者同士やベテランリーダーの方との交流の場としてはもちろん、これから入会を希望する方が支部の雰囲気を知る場としても機能したことがわかりました。また、講演を聞いて、野鳥の生息地を守るために私たちにできることを、考えるきっかけをもらいました。

交流会と講演会を合わせて行ったことで、探鳥会は野鳥を楽しむ仲間と出会える場であることに加え、支部は野鳥のために活動する団体であることが伝わり、支部の魅力が多面的に伝わったのではないかと感じました。

（普及室／江面康子）

▲交流会の様子

◆探鳥会保険集計結果（2016 年９月分）

９月は 66 支部からご報告をいただき、計 210 回の探鳥会が開催され、のべ 3,985 人が参加されました。

表 2. ９月の探鳥会保険集計結果（2016 年 10 月 14 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	25	1	1	27
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	−	−	−	−	−
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	3	70	13	7	90
小樽支部	3	15	10	3	28
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	6	1	3	10
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	4	4	2	10
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	3	19	6	3	28
秋田県支部	4	35	4	4	43
山形県支部	3	16	6	4	26
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	13	13	4	30
北上支部	2	13	1	2	16
宮城県支部	4	46	19	8	73
ふくしま	2	52	0	4	56
郡山支部	2	24	0	6	30
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	3	0	5	8
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	13	3	1	17
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	7	86	60	12	158
栃木	−	−	−	−	−
群馬	1	11	7	5	23
吾妻	1	11	0	2	13
埼玉	3	59	9	23	91
千葉県	7	39	30	25	94
東京	10	259	13	52	324
奥多摩支部	15	162	76	36	274
神奈川支部	11	160	34	32	226
新潟県	1	30	26	4	60
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	1	17	3	1	21
石川	3	51	13	7	71
福井県	3	17	19	3	39
長野支部	1	20	4	2	26
軽井沢支部	−	−	−	−	−
諏訪支部	1	4	0	2	6
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	1	18	2	3	23
富士山麓支部	1	5	1	2	8
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	1	13	0	2	15
南富士支部	2	22	0	3	25
南伊豆	1	3	0	2	5
静岡支部	2	15	2	5	22
遠江	3	61	8	9	78
愛知県支部	9	103	35	20	158
岐阜	−	−	−	−	−
三重	3	41	12	4	57
奈良支部	3	74	8	6	88
和歌山県支部	中止	中止	中止	中止	中止
滋賀	4	25	15	8	48
京都支部	5	62	17	10	89
大阪支部	18	323	57	83	463
ひょうご	3	37	47	10	94
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	2	16	6	2	24
島根県支部	1	7	1	1	9
岡山県支部	2	51	21	7	79
広島県支部	3	42	35	10	87
山口県支部	2	16	10	2	28
香川県支部	5	95	20	6	121
徳島県支部	6	74	17	6	97
高知支部	2	8	10	2	20
愛媛	5	20	17	10	47
北九州	6	44	1	6	51
福岡支部	7	87	13	14	114
筑豊支部	3	16	1	5	22
筑後支部	3	22	3	4	29
佐賀県支部	2	28	6	3	37
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	2	14	0	2	16
大分県支部	3	25	22	5	52
宮崎県支部	1	7	1	1	9
鹿児島	1	39	10	3	52
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	210	2,693	773	519	3,985

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■「探鳥会リーダーズフォーラム東日本」の参加者を募集しています！■

現在、1 月の「探鳥会リーダーズフォーラム東日本」の参加者を募集しています。（50 名先着順、1 月 4 日締切）
みなさまのお申し込みをお待ちしています。

◆実施概要
＜時　期＞ 2017 年 1 月 28 日（土）13:00
～29 日（日）12:00
＜主　催＞ （公財）日本野鳥の会　普及室
＜旅行実施＞ （株）南海国際旅行
＜会　場＞ 八王子セミナーハウス
（東京都八王子市）
＜対　象＞ 支部、連携団体の探鳥会に
関わっている方
＜定　員＞ 50 名（定員になり次第締め切り）
＜参加費＞ 10,000 円（1 泊 2 日）

28 日　分科会 A（1 日目）

A-①「入会につながるインターネット活用術入門」　手塚功（栃木）

A-②「野鳥の行動観察から環境保全を目指す探鳥会」　石井隆（神奈川支部）

29 日　分科会 B（2 日目）

B-①「川の上流から下流までを探鳥会でつなごう！たまりゅう（多摩川流域合同探鳥会）のご紹介」
黒田清恵（神奈川支部）
蒲谷剛彦（奥多摩支部）

B-②「営業のプロが伝授！参加者が入会したくなる探鳥会運営」
樋口公平（神奈川支部）

B-③「有明海の現状とラムサール条約」
中村さやか（佐賀県支部）

【申込方法】
下記ホームページよりお申込ください。
https://www.pac-sys.net/nmes-nankai/entry/?tanchou-kantou2017

＜お申込のみに関するお問合せ先＞
（お申込以外のお問合せは財団普及室へ）
（株）南海国際旅行 TEL：03-3543-3272
（担当：松山）

【申込期間】
2017 年 1月4日（水）まで
（定員になり次第締め切り）

【その他フォーラム全般についてのお問い合わせ】
（公財）日本野鳥の会　普及室　堀本、箱田
〒141-0031　東京都品川区西五反田
3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
メール：tancho-staff@wbsj.org

（普及室／箱田敦只）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇カワセミは青い鳥？

当会発行の図鑑には、返信用はがきとして「お客さまアンケート」が挟まれています。戻ってきたものを販売担当者が私にも回してくれますが、新版では、不満足な点という項目で「色が地味」と、書かれていることがあります。以前にも書かせていただいたように、増補改訂版（2007 年）では、鳥の図版で色が強すぎるものがありました。新版（2015 年）では色校正を重ねて、敢えて地味目にしたものが少なくありません。

図鑑では、できる限り多くの人が実際に目にした印象に沿うような適切な表現が求められます。とは言うものの、野外では条件によってさまざまに見えるし、印象は人による違いもあるので、著者の吟味や判断が問われるところです。また、色校正では印刷の技術や具合にもよるので印刷会社との戦い、手間や時間との戦いにもなります。

きれいな色彩は興味を引くし、画家や写真家には鳥を美しく見せたいという思いもあるでしょう。ただ、最近見かけるカワセミの写真は青すぎるものが多いと思いませんか？　頭や翼は光線の具合で青く見えることもあるので間違いとは言えませんが、背のコバルトブルーとは異なり、緑味を帯びています。そもそも翡翠はカワセミが先で、その微妙な色彩から宝石の名がついたように聞いています。わかりやすい識別ポイントが多いカワセミですから、微妙な色の見え方まで気にしない方が多いのでしょうが、青すぎるカワセミの写真が図鑑に使われるのは、いただけません。

◇夏のカモメはウミネコだけ？

東京支部の探鳥会リーダーだった頃、私は「似た種が多いカモメも夏は簡単、ウミネコしかいないから」と言っていました。新版の「野鳥の見分け方」でも、季節で絞る例として使っていますが、図鑑は全国区でなければなりません。東北以北ではオオセグロカモメも夏にいる、と付け加えてあります。オオセグロカモメの解説文は、増補版（1989 年）までは高野が書いたまま「主に北海道で繁殖し、少数は本州北部でも繁殖」で、分布図は東北の太平洋側に小さな点がありました。私が増補改訂版を担当した時は「青森県以北で繁殖」と書き直したものの、分布図は手を加えませんでした。新版では、宮城県支部などに繁殖状況を教えていただいた上で、東北の海沿いを着色しました。

近年、分布の北上が注目される種が多いようですが、オオセグロカモメでは繁殖分布の南下を気にしなくてはなりません。10 月 1 日発行のいわき支部報「かもめ」に、今年 8 月にハヤブサの生息調査をしていた照島で、オオセグロカモメの雛と幼鳥を確認した、と書かれていました。同支部のホームページでは写真や動画も見られ、「福島県内での繁殖記録について浜通りの各支部へお聞きしたところ、外洋調査は行っておらず、したがって繁殖の記録も無いとの事で、照島が県内で唯一の繁殖地になるのかも知れません」と掲載されています。

◇大切な基礎とは？

『フィールドガイド日本の野鳥』では、高野の教えに沿って、野鳥を知るために大切な基礎的なことを盛り込むように努めています。基礎的なこととは何か？について少しずつ紹介していきたいのですが、まず「はじめに」のはじめに、次のように記されています。・・・鳥は、恒温動物で学習能力を持ち、子育てをするなど私たちほ乳類と共通点があります。ほ乳類は雌だけで子育てする種が多いのですが、鳥の世界では雄も加わるのが普通です。さらに、私たち人間と同じように視覚中心で暮らしており、嗅覚中心で夜行性、地味な種が多いほ乳類と比べると、色や模様に特徴が多く、見分けやすいと言えます。また、昆虫や植物ほど種が多くない点からも、理解しやすい生物と言えるでしょう・・・。

当会発行で初心者向けとされる『新・山野の鳥』では、野鳥の楽しみ方や魅力を紹介しながら「古今東西、名前がわからなくても野鳥に親しんできた人はたくさんいるのです」と書いたので、『フィールドガイド日本の野鳥』では、そのわけとして考えられる鳥と私たちの共通点を最初にもってきました。

今日は環境教育に包含されているとも言える自然保護教育ですが、私が探鳥会リーダーを始めた頃は、自然を守るステップとして「親しむ→知る→守る」と教えられました。その後、『あなたもバードウォッチング案内人』（現『野鳥と自然の解説実践ハンドブック』）を担当することになった私は、最初のステップ「親しむ」をより掘り下げて、「解説より、原体験」「知識より、魅力や楽しみ方」などと書いてきましたが、そのような考え方が背景にあります。

▲新版で谷口高司さんに直していただいた図版の例、今回は増補版で追記したウタツグミです。新版に取り組んでいる際、神奈川県相模原市で撮影された写真が多々出回ったので、新版ではそれらにも目を通して、微修正しました。解説も、類似種チベットウタツグミを削除し、日本で誤認の可能性が高いと思われるクロツグミと比較するなど、書き直しています。

（普及室／安西英明）

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信 11 月号の電子メール版の購読者数は、1 名増えて 846 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表 3. 探鳥会スタッフ通信 10 月号電子メール版の購読者数（2016 年 11 月 16 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪支部	5
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	4
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	12
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	5	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	17
ふくしま	4	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	10
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	8
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	13
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	11
群馬	25	筑豊支部	21
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	38	佐賀県支部	5
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	55	熊本県支部	14
奥多摩支部	47	大分県支部	3
神奈川支部	20	宮崎県支部	4
新潟県	2	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	846

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

「探鳥会リーダーズフォーラム西日本」にご参加頂きました皆様、お疲れ様でした。今後の探鳥会運営へのヒントとして、たくさんの収穫があった事と思います。続いて東日本開催の募集も始まっていますので、皆様のお申込みをお待ちしております。

異例尽くしの今年の気候。関東では「さわやかな秋晴れ」を楽しむ間もなく、冬の気配がしてきています。今年の冬はどんな冬鳥に出会えるのか楽しみです。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第 44 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2016 年 11 月 17 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org